

～いざ 地震 そのときに～

防災についての女性委員会の取り組みおよびその内容紹介

Womens Eyes Societeies

(WE Sニュース 63号 平成28年3月1日発行)

◆はじめに

今回の防災特集にあたり、紹介したいゲームがあります。静岡県からスタートした避難所運営ゲームです。



※写真は静岡県で配布されているキット。

「避難所運営ゲーム」、H 避難所 U 運営 G ゲーム とそのままの頭文字のアルファベットをつなぎ略して「HUG」 ハグと呼びます。HUGの英語の意味は「抱きしめる」、その心は避難所に避難してくる被災者に対し、一人ひとり抱きしめるようなそんな思いで避難所は受け入れ態勢を整えて欲しいという願いもあります。このゲームのルールは簡単で、「避難所開設者の一人として、被災者を受け入れ、当面の運営をする」というものです。いわゆるシミュレーションゲームで配られるカードには避難所で起こりうるイベントが書かれています。その内容はいざ直面すると悩むことも含まれおり、避難所運営者として想定内か想定外か、意見が分かれることも含めていろいろな出来事が書かれてあり、これらの明快な答えはありません。グループ内で話し合っって運営を進めていきます。このゲームを、発表と講評を含めたワークショップにしてこれまでに3回、防災委員会と行ないました。

内容を女性らしいオリジナルバージョンに進化しつつ、4回目のHUGを今月3月19日に行ないます。

このHUGについての取り組みと想いを女性委員会の浦委員長に紹介いただきます。(記事：清水麻紀)



※6月28日の横須賀セミナー参加者の記念写真。

◆委員会による取り組みの経緯

神奈川県は、箱根・湯河原などの温泉地、神奈川の屋根と言われる丹沢の山々、湘南エリアの海岸線…と自然環境に恵まれています。また、超高層建築物がある都市部、工業地帯…と立地条件も様々なため、その地により災害に対する注目点が異なります。

そこで、女性委員会では、2013年より防災委員会と共に、建築士だからできるソフト面でのフォローを目指し、避難所シミュレーションゲーム：HUGのワークショップを県下各地で開催しています。

2013年7月20日、スタートは都市部：横浜。この頃はHUGに慣れるのに精一杯、福祉・防災などテーマごとの班分けをし、地元NPO法人(防災塾・だるま)の助力を得ての開催です。机上の体験とは言え、日常から備えなくてはいけないこと＝自助を実感できる場となりました。福祉施設の施設長より「自分たちの施設が受け入れることもあるので、防災訓練の項目に加えたい」との意見が出たことも、その一例です。

2014年6月28日、2回目は海岸線：横須賀。横須賀支部共催、横須賀市後援のもと、津波時を想定してのHUGとし、この日もNPO法人の助力を得ての開催です。一般市民の参加が多く、自然災害と向き合おうという意欲を感じました。

「自然災害に対して、何かしなくてはいけない。でも、何をすればよいのかわからない。そのヒントを得るためにワークショップに参加した」との感想は、HUGを進めていくことに自信を得る励ましともなり、自分たちでHUGを作っていこうと盛り上がりました。このような思いは、どこかに届くものなのか、この活動は、全国女性建築士連絡協議会A分科会で発表することとなります。

2015年2月28日、3回目は全建女分科会での開催です。「歴史の都」鎌倉を震源地とする地震発生による避難所運営を想定し、鎌倉市防災安全部総合防災課との打合せを重ね、鎌倉だからこそ起こりうる出来事を考えHUGカード「観光客が避難所に避難してきました」、「外国人観光客がボランティアをしたいと避難所にきました」などを作成していきました。もちろん、女性目線でのカード「義理母とともに、里帰り中の妊娠8か月の妊婦と1歳半の男の子が避難してきました」、「要介護2の80歳の母とともに息子が避難してきました」も作成しています。



※2月28日第24回全建女 分科会での様子

これら作業は、開催地とのつながりを生み、様々な情報が得られ、新たな発見を生んでおります。

鎌倉市では長谷寺などの観光場所が、災害時の一時滞在施設（帰宅困難者）として設定されています。しかし、避難所や避難場所のピクトグラムはあるけれど、一時（いつか）集合場所や一時（いちじ）滞在施設の絵表示看板はありません。その時にたまたま居合わせた観光客に、どの段階で一時滞在施設を周知できるのか、そもそも、単語の定義は全国民が理解しているのか、いつか？いちじ？…など検討項目は盛りだくさん、妊婦や子ども、高齢者などの要配慮者は福祉避難所へ誘導されるそうですが、平坦ではないと思われる震災後の道路を歩くことは容易ではありません。在宅介護サービスが必要な要介護高齢者への支援も厚生労働省より行政の介護保険担当者へ検討通知が出ていますが、自分たちの住む場所ではどうなっているのかを把握していく必要があります。

HUGを通して、災害時の不明点は上記以外にも多々あることが分かり、課題は山積みです。家族と一緒に避難所での生活を望む方も多く考えられるので、要配慮者への思いやり・空間の提案（例えば、体育館のステージには幕があるので、そこを女性専用着替えブースに代用できないかなど）は、女性委員会で是非とも検討し実施していきたいことです。

2016年3月19日、4回目は、山側：相模原での開催です。こちら相模原にある避難所を想定し、HUGカードを作成しております。机上の体験ですが、気付くことはたくさんあります。ぜひ一度、HUGを体験していただくことをお勧めし、参加をお待ちしています。（女性委員会委員長 浦 絵美）

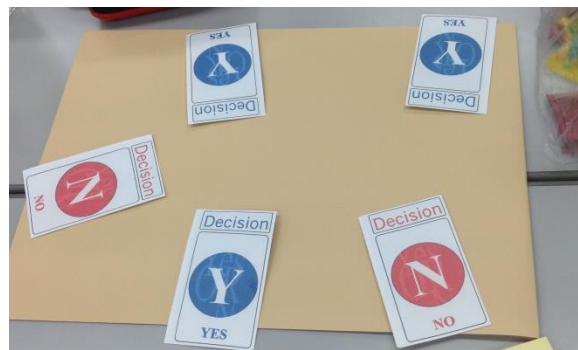
つどう・つくる・つながる・ひろがる、
そして支え合う、
女性委員会のその他の活動も記載された
ホームページもぜひご覧ください。
「神奈川県建築 女性」で検索できます。
鋭意更新中！詳細申し込み方法も掲載！！

◆HUGでの交流と広がり

第24回全国女性建築士連絡協議会 A 分科会で私たちはHUGの体験も含めた発表を行ないました。第25回全建女の分科会での千葉県建築士会女性委員会による被災の現状を把握、分析や研究研修を経て市民への啓蒙活動ということをも木になぞらえて「大きく育つ防災の木」という分科会発表のワークショップに参加したご縁で千葉女性委員会開催の防災についてのゲーム「クロスロード」に2016年1月30日参加しました。横須賀2回目のHUGに千葉女性委員会の方に参加いただいたのがきっかけでもあり、千葉も同じ防災シミュレーションゲームで、ルールの異なる「クロスロード」を用いたワークショップを開催するというつながりと広がりを感じています。

◆クロスロードゲームとは

このゲームは、もともと防災に限らず様々なテーマに対し異なる知識をもち、違う立場の人同士の検討を活発に行なう手法として大学などで利用されていたのですが、この手法で被災したときなど災害をテーマにすることで様々な立場や大人子供も一緒に意見を言えるゲームにするという鋭い着眼点によりつくられたそうです。設定するテーマを変えれば何にでも応用が利くので、準備するのは、良く練り上げられたいくつかの設定課題 と参加人数分のカード（「イエス」「ノー」の2托用）、点数のわかるもの（ご褒美の飴）と記録用紙となります。



※写真は伏せたカードを開いた場面。3対2でイエス・複雑な設問でも、回答はYes, Noの2択しかない。
・カードは伏せておき、全員揃ってから開く。
・多数決で飴を一つ手に入れる。一人だけのときは飴を3つ手に入れる。各々Y, Nその理由を説明する。

◆HUGもクロスロードもその後が大切。

いずれのワークショップも参加してみるとその場での決定に無理があるため、あらかじめ災害に備えて何を取り決め、準備しなければならないのか自治会や家族で話し合いが必要であると感じると思います。ぜひ話し合っしてほしいと思います。そして、家族や仲間、大切な人同士、地域の人同士の防災への話し合いこそが一番の備えとなることなのでしょう。参加することで新しい視点が得られ、有意義な話し合いになると思います。（広報担当 清水麻紀）